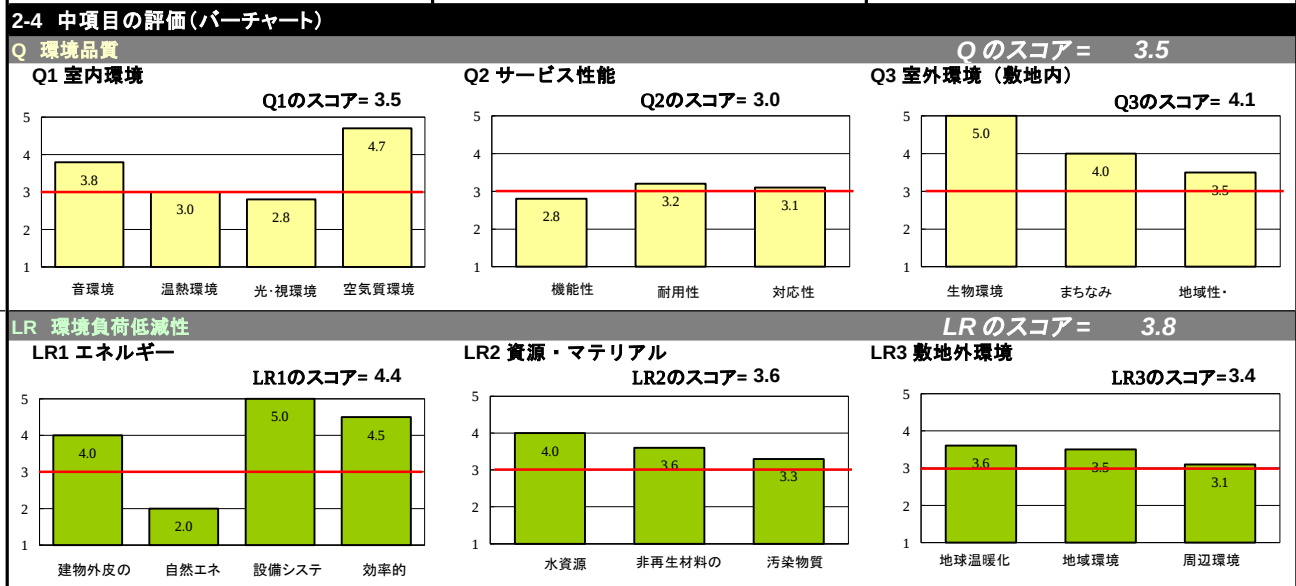
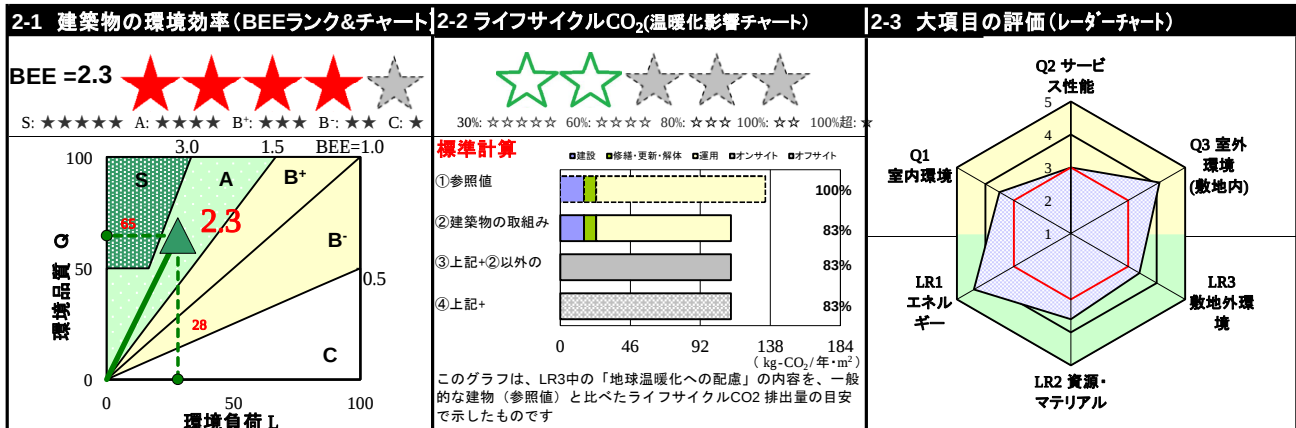


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)教育研修施設新築計画(宿泊棟)	階数	地上4F
建設地	大阪府箕面市栗生新家及び栗生間谷西	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	493 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年7月23日
敷地面積	64,359 m ²	作成者	株式会社 日建設
建築面積	5,792 m ²	確認日	2025年7月23日
延床面積	18,756 m ²	確認者	株式会社 日建設



3 設計上の配慮事項		
総合		
広大な屋根面を最大限に活用し、太陽光パネルを全面的に設置することで、再生可能エネルギーの積極的な導入を図った雨水貯留槽を設置し、中庭の散水等、雨水の有効利用する計画。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
個室はコンパクトであるが、開口に対して最大限の開口を確保。	個室はコンパクトだが、ユニットリビングは共用部と一体的な利用が可能で、共同生活の快適性と交流を促進する。各階及び女性用ユニットに、車いす対応の寮室及び浴室・洗面を設け、多様な利用者に配慮した居住環境。	屋上庭園や中庭の設置により、内外に自然のつながりを感じる快適な居場所づくり。敷地に自生していた樹木の実を採取・発芽させて植樹することで、地域の自然資源を活かした取り組み、季節の変化
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
屋根全面に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを積極的に導入。中庭には雨水貯留槽を設け、散水などに雨水を有効活用する。	敷地の伐採木をドアハンドルやサイン、フローリング材に再利用し、地域資源の有効活用を図った。	雨水流出抑制対策を実施し、周辺地域への水環境保全に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)教育研修施設新築計画(宿泊棟)							
建設地		大阪府箕面市栗生新家及び栗生間谷西							
用途／区分		集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						4		
③	断熱性能							4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分						4	
④	エネルギー消費性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分						3	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外					評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	5.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		